

Title	観心寺の七星塚
Author(s)	宇野, 良雄
Citation	天界 = The heavens (1936), 16(178): 140-142
Issue Date	1936-01-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167163
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

観心寺の七星塚

京都市 宇野良雄

大和と河内の國境葛城山脈の主峰金剛山一帯は南朝の歴史に数多い史跡を持つてゐるが、その西麓長野に近く観心寺といふ楠公舊跡として名高い寺がある。その観心寺の境内に天の北斗七星を導びき下ろして祭られると傳へられ信仰の對象となつてゐる七つの塚がある。十二月十五日(日)大阪市の西森菊雄氏と共に北野田の大口周作氏を訪問した際足を伸ばし大口氏の先導によつてそれを探ねてみた。

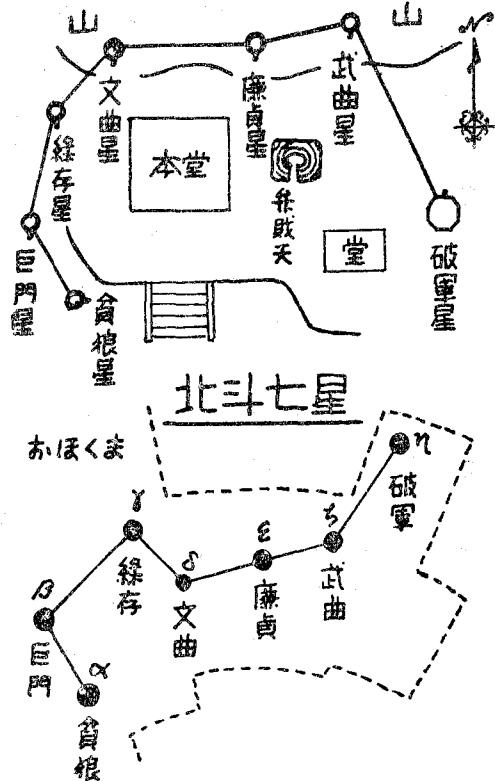
四時半南海電鐵長野驛(大阪難波より五十分)に下車。驛前より直ちに自動車で寺に向ふ。驛を北に迂回して山に入り緩やかな登りの良い路を屈曲しながら東に進む。冬晴れの空は都市で見られない美しい澄切つた青色をし展開する山々は午後の日を受け緑のなだらかな肌を輝かす。右側に深い溪が見える、この邊り全く良い景色であるこの路は楠公舊跡巡りのハイキングコースになつてゐるとの事である。散在する農家を過ぎて約二十分で寺の前に着く。こゝは大阪府南河内郡川上村で大阪市の南南東約十五軒、長野驛より東南約三軒の處である。

門を潜り北に向つて眞直に坂になつてゐる石疊の參道を進む。寺は後に山を負ひ東西に長い平地があり林中に建物が散在してゐる。此處まで尋ねて來たものゝ三名共唯單にこの寺に「シチセイゾカ」といふものが有ると聞いてゐるだけで果してそれが「七星塚」であり少しでも天文に關係のあるものかどうか何も知らないのである。楠公舊跡として「七度人ト生レテ朝敵ヲ亡ボサン」から「七生塚」では無いかといふ話も出て不安を抱き乍ら境内の祠やそれらしいものを物色しつつ奥へ進む。冬の夕暮のこととて境内には人影もなく深閑としてゐる。「楠公櫻」や關係ない堂はあるが一向塚らしいものもなく正面奥の本堂まで登り切る。本堂の片隅に老人がゐるので尋ねて見ると「七星塚」といふのは知らぬが天下りの星の祭つてあるのなら本堂の廻りに七ヶ所あり赤

い圖がしてある。あそこに見えるのがその一つだと本堂から東の方に見える立木の集りに赤い柵のしてあるのを教へてくれる。これでどうやら尋ねて來たものが天文に關係ない物でもなさそうで胸を躍らせ乍ら早速近づいて調べる。

黒い柱が角にありその間を赤塗りの柵がしてあり八角形の圖になつてゐて北側が正面らしく一寸門の様に屋根がしてあり右側の柱に木の札が張られてゐる。それに「破軍星 弘法大師鎮護國家諸人願望成就ノ爲メニ天ノ北斗七星ヲ勸請シ給フ 其ノ一ナリ」とある。大喜びでノートする。破軍星といふ名が大熊座 η の古い支那名である事と七つといふ事から直ちに七つの塚が北斗七星の形に配置されその一つ一つに北斗七星の名が付けられてゐるのでは無いかと考へられ位置を記録する。破軍星から北に當る山のやゝ上に赤い柵が見へ行つてみると武曲星とあり更に西へ山に路があり廉貞星、文曲星がある。こゝから山を下

河内國観心寺七星塚



り南へ本堂の西に緑存星があり更に續いて巨門星、貧狼星がありこれで本堂を一週する。急いでゐたため精密ではないが七つの塚の位置を描いてみたが挿圖の様に別に北斗の形になつてゐず、本堂を圍んで圓になつてゐて星座でなら冠座の様な形になつてゐる。七つの塚の大きさや柵の形、正面の向いて

ゐる方向等異つてゐるので別に意味ないものと思はれたが記録してみた。次の様である。

破軍星 本堂の東約三十米の平地にあり七つの塚の内最も大きく直經六米位、正面は北側にあり八角形の圍である。圍の中は土がやゝ盛上り太い檜一本檜らしきもの十本位生へ中央附近に石塊あり長經二十糎位の石が土中から出てゐる。この木札に前記説明文が書かれてゐるが他の六つの處は單に星名のみが書かれてゐる。

武曲星 破軍星より北方の山林中の斜面にあり圍の形は四角で直經は三米位、正面は南にあり、木が四五本中央に苔の生へた石らしいものがある。

廉貞星 武曲星の西數米の山林中。圍の形は六角で南面。木數本石あり、

文曲星 本堂の西端北方の山林中廉貞星と正しく東西になつてゐる。八角南面、直經二米位七つの塚の内最小。太い木が一木あり去年の颱風の爲か地上三米位で折れてゐる。石は見當らない。

綠存星 文曲星からだらだらと下りた本堂西側數米の處にあり、八角南面。細い木が數本あり白い石が多く轉がり中央に立つ三十糎位の石に黒く梵字らしいものが見へてゐる。

巨門星 綠存星の南數米の平地にあり、八角南面。綠存星同様木石が多い。併し石に文字らしいものは認められない。

貧狼星 本堂の平地へ上る石段の西數米の處にあり、八角東面。大きさは直經三米位、柵や名札は七つ塚とも皆新らしく名札の文字等全部明瞭に讀めた。

この塚と關係ないものであろうが本堂東側に池あり辨財天が祭つてある。大口氏によつて七つの塚全部の撮影がされる。本堂の老人はこの塚に關する知識が無いらしいので表に出て西數丁の寺の事務所に文獻其他何か資料でも得られればと尋ねて行く。(つゞく)

カ | レント・トピクス 木星と土星とはアンモニヤとメタン瓦斯に包まれてゐる。金星の大氣は、しかし、炭酸瓦斯(CO₂)である。